



音楽を伝える喜び



サクソフォンカルテット「北の四重奏」 代表：今 廣志

北の四重奏は1982年10月に結成されました。以来毎年コンサートを開催し、今年で33回を数えます。その間に弘前市立病院ファミリーコンサートや音楽教室、介護施設への訪問演奏などさまざまな活動をしてきました。

その中でも市立病院のコンサートは、北の四重奏から始まった思い出深い企画です。当初はマタニティコンサートとしてスタートしました。1995年春に、産婦人科の先生からご相談を受けました。妊婦さんに胎教として生の音楽に接する機会を持たせたいという趣旨に賛同し、北の四重奏が全面的に協力することで同年6月に最初のコンサートが行われました。

始めた頃は演奏してくれる方々が少なく、思い当たる方を病院に紹介しつつ3ヶ月に1回のペースで3年間続けました。マタニティコンサートとはいってもいろいろなご病気の入院患者さんも聴きに來られるし、同じ曲が連続しないよう、そして季節感も出しながらの選曲や練習は結構大変でした。

年を重ねるうちに演奏してくれる方々も少しずつ増え、1998年からは年2回、2003年からは年1回、12月の出演となりました。このコンサートが始まってもう20年経ちますが、私たちの演奏は35回を数えます。

演奏していると、聴いて涙を流している方を見かけたりします。小さな子どもが目の前で踊り出すこともあったりします。母親の付き添いをされていたご家族の方がとても癒やされたと、ラジオ番組「沢口靖子のいってらっしゃい」に投稿して下さったこともありました。演奏の合間のトークに何度も頂き、演奏が終わると一生懸命拍手して下さる方も大勢います。何らかのお役に立っていることを実感します。

このコンサートは、演奏することの意義・目的を気付かされ、演奏することの喜びを教えられた、北の四重奏の成長の場でもありました。ボランティア活動をする側とそれを享受される側、双方にとってこの上無い貴重な時間となるよう、これからも頑張っていきたいと思っています。

※胎教・・・お母さんを通して赤ちゃんに良い影響を与えること



私は、市立病院に勤務した時、ファミリーコンサートを担当し、その間、北の四重奏さんには随分とお世話になりました。私が勤務した2003年以降、北の四重奏さんには12月を担当していただき、クリスマス病院のベッドで迎えなければならない入院患者さんのために、毎年趣向を凝らした演奏と今廣志先生の楽しいトークで盛り上げていただきました。

点滴のスタンドを持ちながら足でリズムを取って聴いている患者さんたちを見ていると、スタッフの一員として大きな喜びと出演者への感謝の気持ちでいっぱいでした。これからも、入院患者さんのため、コンサートが長く続けられることを願っております。

(市民参画センター 白取義人)



ボランティア…いや私にとってはお手伝い

石塚 広子

自分でも出来るボランティアがないかな？と考えていた時に目にしたのが「一日体験ボランティア」のチラシでした。“施設の利用者さんと一緒におかしを作って食べましょう”という内容のおいしそうな見出しにすぐに電話をしました。

当日はとてもドキドキしながら、会場となる施設に行きました。施設のかたの対応も良く『ボランティアに來ましたよ』という感じではなく、利用者さんや他のボランティアさん達と一緒にわいわいおしゃべりしながら楽しくおかしを作って食べました。この時に担当となったボランティア支援センターのかたから色々なボランティアの紹介を電話で受けるようになりました。

買い物の付き添い、サッカーやバスケットボールの試合のお手伝い等です。そして私の趣味であるフラダンスも踊る機会を与えてもらい、老人施設での夏まつり、敬老会、クリスマス会と色々な場所へ出向きました。

一枚のチラシに勇気を出して踏み出した一歩から、たくさんの人達との出会いがありました。これからも私に出来るボランティア…いや「お手伝い」をさせていただきたいと思います。そして、どんな時にでも笑顔を忘れないでいきたいと思っています。



ほっと・ぼらんていあ

～ボランティアされているかたをゲストにお迎えして様々なお話をさせていただきます～

テーマ：『おかえり！』

罪を犯した人も、やがて社会に戻ってきます。これらの人たちが再び罪を犯すことがないように立ち直りを助けるとともに犯罪や非行のない安心・安全な地域社会をつくるための取り組みがあります。



日時：平成27年8月29日（土）

13：30～15：30

場所：市民参画センター 3F

ゲスト：弘前地区保護司会
会長 竹鼻政嘉

※ 参加費：無料（どなたでも参加できます） 事前申込：不要

豆 知 識



海鮮ちらし寿司の食べ方



ホタテ貝やまぐろなどの海の幸が酢飯の上ののっている海鮮ちらし寿司。好きなように食べるのが一番美味しいのですが、高級寿司店などのかしこまった場所に行った時のためにマナーを知っておいて損はありません。

- ①しょう油を小皿に入れる。
- ②ネタにわさびを少しのせ下側にしょう油をつける。
- ③ネタをご飯の上に戻しご飯と一緒に口に運ぶ。

この繰り返しです。

しょう油にわさびを溶いて上から「ダーツ」とかけて食べたいところですが、ご飯までしょう油がしみ込んでかなりの塩分です。

マナーのように食べると減塩にもつながりますよ。



編集後記

仕事の帰り道でのこと。

小雨の中、スクランブル交差点で信号待ちをしていた時に、傘を差した年配のご婦人が強風にあおられて転んでしまいました。

幸いすぐに立ち上がって大事には至らなかったようでしたが、自転車で信号待ちをしていた男子高校生4～5人の内の1人が「大丈夫ですか？」「気を付けて下さいね」と声をかけていました。

それもカッコ良かったのですが、一緒にいた学生がそれを茶化するでもなく、彼の行動に「お～！」という雰囲気だったことがちょっと感動的でした。

雨天でしたが、学生の姿に心は晴れ晴れでした。



<製作>市民ボランティアスタッフ<製作協力>弘前市ボランティア支援センター
〒036-8355 弘前市大字元寺町1-13 弘前市民参画センター内
TEL: 38-5595 FAX: 36-1822
HP: www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/

※ URLが変更になりました。
情報紙についての意見・感想をお待ちしております。